

29pmG-060

東京都病院薬剤師会における配合変化・輸液ライン・フィジカルアセスメント
体験研修会への取り組み

○小園 幸輝^{1,8}, 渡邊 徹^{2,8}, 藍澤 牧美^{3,8}, 相澤 学^{4,8}, 高坂 聡^{5,8}, 中山 春雄^{6,8},
平島 徹^{7,8}, 西澤 健司^{1,8} (1東邦大医療センター大森病院薬, 2昭和大附属豊洲病院
薬, 3東京都教職員互助会三楽病院薬, 4公立学校共済組合関東中央病院薬, 5東京医
大八王子医療センター薬, 6日立横浜病院薬, 7東京慈恵会医大葛飾医療センター薬,
8東京都病院薬剤師会)

【目的】多様化する医療環境のなか、チーム医療の一員として、より専門性の高く臨床に強い薬剤師が必要とされている。東京都病院薬剤師会では、平成15年度より、専門的な知識や技術を持った薬剤師の養成を目指し活動を行っている。そこで、輸液・栄養領域専門薬剤師養成研究会では、平成24年度より新しい取り組みとして、輸液・栄養療法を行う際の実践での知識・技能習得を目的とし、「配合変化・輸液ライン・フィジカルアセスメント 体験研修会」を開催している。今回、これまでの活動状況と研修会の内容について検討した。

【方法】本体験研修会は年間5回開催し、実際に体験研修を中心に、第1、2回は輸液の投与管理、第3回は輸液配合変化、経腸栄養管理、第4回はフィジカルアセスメントトレーニング、第5回は医師による輸液・栄養管理におけるフィジカルアセスメントを開催した。そこで、本体験研修会の活動内容を評価する目的で、平成24年度研修会受講者24名に対し、薬剤師経験年数、輸液・栄養領域業務への従事頻度、今後の業務への有用性などのアンケート調査を実施した。

【結果】研修会参加者の薬剤師経験年数は3年から20年と幅広く、輸液・栄養領域業務従事者が9割以上であった。本研修会について、9割以上が有意義との回答であった。また、体験する時間をもう少し欲しかったといった意見もあった。

【考察】薬剤師を対象とした体験型研究会の必要性が把握できた。これまで知識として習得していたことが、臨床現場で実践として直接活用できるようになることで、今まで以上に他職種と協力して、より専門性を持った薬剤師が医療に参画していくことができると考える。今後、本結果をもとにした臨床現場のニーズに合った内容に努めていきたい。